

自民党ひとり良識派
村上誠一郎

誰よりも自民党を
愛するからこそ
覚悟の正論!

安保法制は問題だらけ、
立憲主義を守れ。
憲法は権力者のものではない。アベノミクスはもう限界である。
かつてのわが党の良さを取り戻せ!



自民党ひとり良識派
(講談社現代新書)

天声人語

同調圧力という言葉がある。空気を読んで周りの行動にあわせるよう、強いられることをいふ。就職活動で黒いスーツを着る、ママ友に話をあわせる、カラオケでみなが知っている曲を選ぶ……。

おとといの衆院本会議でも、それらしい光景があった▼安倍晋三首相が所信表明演説で領土などを守る決意を述べたあと、海上保安庁、警察、自衛隊に「今この場所から、心からの敬意を表そうではありませんか」と呼びかけた。自民党議員たちが一斉に立ち上がり、拍手を始め、首相も壇上から手をたたいた▼映像を見て首をかしげた方もおられよう。議長から「ご着席を」との注意があり、生活の党の小沢一郎代表から「北朝鮮か中国共産党大会みた

い」との声が出た▼多くの職業のなか、なぜこの人たちだけをたてるのか釈然としない。あの場で議員たちは、気持ち悪いと思いつつも、あんなに起立したのだろうか。あるいは、ためらいや疑問もなく体が動いたのか▼自民党衆院議員の村上誠一郎氏が近著で嘆いている。首相に意見を言える土壌が党から失われつつあり、「不由民主党」といっていいかもしれない。自民党の政治家が「自らの頭で物事を考え分析することができなくなっていく」とも心配している(『自民党ひとり良識派』)
▼首相は以前、自分は「行政の長」と言うべきところを「立法府の長」と間違えたことがある。議員一人ひとりがコマのように動かされるだけなら、あながち誤りといえなくなる。